

3. 北関東（地域別調査機関：（財）日本経済研究所）

（ - : 回答が存在しない、 : 主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連	良く なっている やや良く なっている	-	-	-
		百貨店（売場主任）	単価の動き	・プレステージの品ぞろえを図っており、ダイレクトメールにて既存客に加え新規顧客の来店も促している。
		衣料品専門店（店長）	単価の動き	・雨の日が多く、気温が低いため、冬物のセーターや上着など、単価の高い商品が前年より早く動き始めている。
		乗用車販売店（販売担当）	お客様の様子	・カタログをもらいに来る客が増加している。以前はただカタログをもらうだけであったが、より具体的な話、すぐにでも購入するというような話がよく出るようになってきている。
		タクシー（経営者）	お客様の様子	・昼夜とも全面的に良くなってきている。売上は前年同月比で10%程度増加している。
		通信会社（営業担当）	販売量の動き	・ケーブルテレビのアナログ契約者へデジタル契約へのアップグレードに関するダイレクトメールを送ったところ、非常に好評で、予想を上回る電話が殺到している。
	変わらない	住宅販売会社（経営者）	来客数の動き	・地価の下げ止まりを見切ったのか、借入してまでという客はまだ少ないものの、自己資金でまかなえる客が動き出している。
		商店街（代表者）	お客様の様子	・来客数はそれほど変わらないが、客単価が若干低下している。ヒット商品がないということも購買に影響している。
		商店街（代表者）	販売量の動き	・客は自分が買うと決めた品物は購入するが、他に良いと思う物があっても、そこまでは買わない。販売量が伸びていない。
		一般小売店〔精肉〕（経営者）	お客様の様子	・運動会や祭りの季節であるが、今月は毎週のように台風の襲来があり、人の動きが少なくなっている。月末の地震で外に出ることを控えている人も多い。
		一般小売店〔金物〕（経営者）	販売量の動き	・建築資材関係の原料値上げに伴い、全商品、問屋からの卸価格が値上げとなっている。仕入価格の値上がり販売価格に転嫁することは難しく、転嫁した商品はなかなか売れないという状況で、苦慮している。
		スーパー（経営者）	お客様の様子	・客の買物動向は安い品か、高額でも良い品へと二極化している。
		スーパー（総務担当）	単価の動き	・来客数と販売量は増加しているが、一点当たりの単価は前年の95%程度となっており、全体の売上は横ばい状態が続いている。
		スーパー（統括）	販売量の動き	・例年に比べ9月下旬～10月上旬の最低気温が高めに推移したために、秋物のトレーナーやニットは前年を下回ったが、逆にボロや綿シャツの動きは活発となった。防虫関連は10月第3週目と、2週ずれ込み、カイロも下旬になってようやく動きが出始めてきている。トラベル用のバッグは前年比110%前後と好調に推移している。食品は、野菜高騰の影響からか、もやし、かいわれ大根、ごぼう、じゃがいも、たまねぎなど、天候の影響を受けない商品の動きが活発である。
スーパー（副店長）	単価の動き	・総額表示導入以降、消費税の5%を売価に組み込んで販売し、店の負担が大きくなっている。油の高騰により、サラダ油、マヨネーズ等の関連商品の販売において利益が取れなくなっている。		
コンビニ（経営者）	来客数の動き	・近隣に競合店がオープンしてから来客数が15%減少し、まだ戻っていない。		
衣料品専門店（統括）	お客様の様子	・例年であれば祭りで商売が一番盛り上がっているところだが、今年は売上がやや減少している。なるべくある物を利用して消費を控えて祭りを楽しもうという、今までにはみられない客の傾向と、祭りの1日目に台風が来て中止となった影響である。		
家電量販店（店長）	販売量の動き	・競合店の出店により、来客数、販売量とも減少しており、この半年は非常に厳しい状況となっている。		
乗用車販売店（経営者）	単価の動き	・高額新車の動きも少し良くなってきたが、まだ低価格車を求めるユーザーが根強く多い。		

	住関連専門店 (店長)	単価の動き	・来客数、販売量は前年並みであるが、売上は前年を下回っている。
	高級レストラン (店長)	来客数の動き	・度重なる台風の影響で来客数が極端に減少している。前年比で売上が20%以上落ち込み、最悪の状況である。
	一般レストラン (経営者)	来客数の動き	・地元特産の鯉料理等、特色あるメニュー作りを行い新規客の獲得を図るが、まだコイヘルペスウイルス病の影響もあり、全体的には変わらない。
	観光型ホテル (スタッフ)	来客数の動き	・観光シーズンとなったが、団体客は前年より2割程減少している。
	都市型ホテル (スタッフ)	販売量の動き	・農繁期も重なり、10月は人の動きが鈍い。まとまった大会などが多少あるので何とか動いているが依然として非常に悪い。
	都市型ホテル (スタッフ)	販売量の動き	・集宴会、宿泊とも前年の2割程度マイナスである。単価もいまだに伸びていない。
	旅行代理店(営業担当)	販売量の動き	・来客数は微増傾向にあるものの、交通機関のチケット、ビジネスホテルの宿泊など、必要な物しか売れない状況は変わっていない。温泉旅館の宿泊券などの売上が増えれば、来客数の伸びに準じた販売量となる。
	タクシー運転手	お客様の様子	・客は自分の行動パターンに合わせて乗り物等を利用するのではなく、公共交通機関の範囲内に収まるように行動を狭めている。
	通信会社(営業担当)	競争相手の様子	・価格競争がますます激化している。
	観光名所(職員)	お客様の様子	・紅葉シーズンの最盛期で客の入込状況は例年並みであるが、日帰りや別荘で過ごす客が多く、レストラン、ホテルの売上は例年を下回っている。
	遊園地(職員)	来客数の動き	・三連休の初日に台風が通過するなど大きなマイナス要素があったものの、何とか前年並みの入場者を確保できそうである。
	競輪場(職員)	お客様の様子	・土日の開催は天候に恵まれず、来客数、客単価とも伸びていない。
	その他サービス [自動車整備業](事務長)	お客様の様子	・従来からの客は再度車検に来てくれるものの、タイヤやエンジンオイルなどはあらかじめ点検、交換してから来るようになってきている。付加価値のつけようがないので、かなり低い車検整備料金のみでの売上となっている。
	設計事務所(所長)	それ以外	・仕事の受注量は3か月前とあまり変わらず、企画が仕事になるかならないかの割合もそれほど変わっていない。
	住宅販売会社 (経営者)	お客様の様子	・不動産価格もやや下げ止まり、落ち着いてきているが、販売、賃貸にかかわらず、客は必ず値引き交渉をしてくる。デフレ現象である。
やや悪くなっている	商店街(代表者)	来客数の動き	・週末ごとの台風来襲、浅間山噴火、中越地震など天災続きで観光客が減少している。
	百貨店(販売促進担当)	来客数の動き	・来客数が前年に比べ10%以上も減少している。台風の影響だけではなく、客の買い控え傾向があり、売上も減少している。
	百貨店(販売促進担当)	販売量の動き	・秋雨前線による雨天の日々が続き、台風の上陸、新潟の中越地震などの悪いニュースが多く、来客数が減少している。
	コンビニ(店長)	来客数の動き	・売上はほぼ前年並みであるが、客数は2%程度前年を割っている。以前に比べ、公共料金やATMの使用頻度がとても高くなったことや平日の年配客が増加していること、土日のコンビニの使われ方が変化したことが要因である。
	衣料品専門店 (経営者)	販売量の動き	・例年10月は、12月に次いで売上の多い時期であるが、今年は最悪で、特に販売量の減少が大きい。また、原因も特定できていないので深刻である。
	自動車備品販売 店(経営者)	お客様の様子	・比較的安い車を買ひ、修理も安い方法、低価格を求められるようになってきている。客が値段を比較して他店に移動する傾向にあり、厳しい。
	スナック(経営者)	来客数の動き	・宴会件数はそれほど落ち込んでいないが小規模になっており、フリー客も減少気味で、来客数が減少している。災害で道路が壊れたり、新潟も割合近いので、建設業には活気が出てきたような印象もあるが、全体としては落ち込んでいる。

		旅行代理店（経営者）	それ以外	・台風や中越地震の災害、原油高と悪条件が重なり、3か月前に比べてやや悪くなっている。
		タクシー運転手	お客様の様子	・深夜の客は依然少なく、土日は客がほとんどいないので、売上が減少している。
		ゴルフ場（支配人）	それ以外	・10月は台風によるクローズ、週末の雨で来場者が激減している。自然相手の職場とはいえ、秋のトップシーズンにこの状態で、年度内に来場者数をカバーするのは難しくなっている。中越地震のこともあり、プレイヤーの意識も低下している。
		設計事務所（所長）	競争相手の様子	・同業他社も含めて仕事の受注が少なくなっている所が多い。
	悪くなっている	衣料品専門店（経営者）	来客数の動き	・台風や地震などの災害が多く、先行きが暗い。
		衣料品専門店（販売担当）	来客数の動き	・4～5キロ先と10キロ程度離れた所に大型ショッピングセンターが相次いでオープンし、客層の流れが変わり、来客数がかなり減少している。中心部への来街者が本当に少なくなり、景気はかなり悪くなっている。
企業動向関連	良くなっている	-	-	-
	やや良くなっている	化学工業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・受注増までは至っていない商品も一部にはあるが、その分野にも引き合いが増えており、ユーザーの設備投資が確実に進んでいる様子がうかがえる。
		金属製品製造業（経営者）	取引先の様子	・工作機械、マシニングセンタ等、産業機械、工場用の大型のコンプレッサ等において、上期は前年比125%の計画が115%増で締めくり、下期も同水準で推移する計画となっている。
		不動産業（管理担当）	それ以外	・空テナントの入居はなかなか決まらないが、このところ下見でスペースを確認したり、賃料の情報収集をしに来る会社が増えてきている。特に、今まで撤退しかなかった飲食業で入居したいという会社が出てきている。
		その他サービス業〔情報サービス〕（経営者）	取引先の様子	・取引先は業績が改善しており、設備投資についても前向きである。生産設備がフル稼働している所も増えてきている。
	変わらない	食料品製造業（営業統括）	取引先の様子	・各メーカーとも秋の新種ワインにかなり期待していたが、思ったほどの大きな動きはみられない状況である。
		一般機械器具製造業（生産管理担当）	受注量や販売量の動き	・自動車の四輪駆動関連部品の受注が好調で、フル生産状態が続いている。また、一部工程は加工能力一杯の仕事を抱え、注文を受けきれない状況にある。
		電気機械器具製造業（経営者）	受注価格や販売価格の動き	・全般に仕事量は出てきている。加工関係は一時の忙しさに比べると落ち着いている。大手企業は利益を出しているようであるが、下請企業は依然として低コストに苦しんでいる。
		精密機械器具製造業（経営者）	取引先の様子	・相変わらず引き合いはあるが、納期、コストが厳しい。
		建設業（経営者）	受注量や販売量の動き	・受注は減少しており、資材高で採算が悪化している。
		その他サービス業〔放送〕（営業担当）	受注量や販売量の動き	・自動車、電機産業等を中心に製造業は景気の明るさがみえているが、地方都市でのコマースは依然として厳しい状況にある。商業、サービス業からのスポットコマースは増えてきているが、期間が短く小口化している。イベント受注は値引き要求が強く、利益の確保が難しい。
	やや悪くなっている	電気機械器具製造業（経営者）	取引先の様子	・当社の売上の20%程度を占める取引先の本社が新潟県にあり、その周辺に工場群を持っているが、中越地震以降支給部品が一つも来ていない状況である。注文は一杯あるが、現在ある部品を使いきると手が空いてしまうのでどうしようもない。別の地域に製品を移管されると、激減となる可能性も考えられる。
		輸送用機械器具製造業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・7月時点で10月の受注は前年比10%近く伸びると予想していたが、実際は3%程度と様変わりしている。
		その他製造業〔宝石・貴金属〕（経営者）	受注量や販売量の動き	・大手の規格品の受注は順調に推移するものの、店頭販売が伸び悩んでいるため売上が伸びない。

		新聞販売店〔広告〕（総務担当）	取引先の様子	・今月のチラシ出稿量は102%と前年を上回ったが、取引先のホームセンターや量販店で来客数が減少し、客単価も低下したと聞いている。今月は天候も不順の上、各地で大きな被害もあり、先の不透明さが消費者心理に影響を与えている。
		経営コンサルタント	取引先の様子	・前年、前々年に比べて販売実績が減少、あるいは損益状況が実質悪化している企業が大半である。雇用状況もほとんど改善されていない。また、一部を除いて個人、家計の生活レベルも向上していない。
	悪くなっている	電気機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・下期、10月は取引先が在庫調整に入り、受注量が激減している。
		建設業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・公共事業のウエイトが高いため、公共事業削減の影響により売上は前年度の58%となっている。経費削減を図ってはいるが、決算は大幅な赤字となる。
雇用 関連	良くなっている	-	-	-
	やや良くなっている	人材派遣会社（経営者）	周辺企業の様子	・このところ、「忙しいので人を入れてほしい」という会社が多くなっているが、現在は人材があまりない状況である。
		人材派遣会社（経営者）	求人数の動き	・住宅関連や電子関連の求人数が増加してきている。採用者数についてはまだ不確定な部分があるが、今月は求職者がかかなり減っている。販売形態の変化、季節商品等の動きもあり、販売、サービス部門にも人員が流れている。
		職業安定所（職員）	求職者数の動き	・月間有効求職者が、前年同月比で22か月連続して減少しており、21か月連続で10%以上減少している。依然として求職相談等に来所する求職者は多いものの、目みえて減少している。
		職業安定所（職員）	求職者数の動き	・新規求職者数が、前年比で6か月連続して減少している。事業主都合による離職者も減少している。建設業を除く業種の新規求人数が増加している。
	変わらない	人材派遣会社（営業担当）	求職者数の動き	・一部のIT関連メーカーからの派遣要請は、相変わらず堅調である。一方、携帯ショップで販売員の減少傾向がみられ、また、従来好調だったデジタル関連メーカーで派遣数が縮小されている。全体的な労働需給の傾向は人不足の状況となっている。派遣要請に見合う人材が見つからず、要請にこたえられないケースが目立っている。現在就業中の人材に対し、条件の良い仕事への転職を勧めるなどの対策も、時には取らざるを得ない状況となっている。
		求人情報誌製作会社（経営者）	求人数の動き	・当社の扱っている広告掲載エリアについては、天候不順等もあり、ここ1年半でみるとやや低調に推移している。5～10%程度求人募集が少ない。
		職業安定所（職員）	それ以外	・平成17年3月卒の高校新卒者向け求人数が、10月になって大幅に減少してきている。
		民間職業紹介機関（経営者）	求人数の動き	・製造業以外の業種は目立った動きが全くない。
		学校〔大学〕（総務担当）	採用者数の動き	・現在の内定率は、男子学生が約7割、女子学生が約8割となっており、大きな変化はない。
	やや悪くなっている	-	-	-
	悪くなっている	-	-	-